

市立

小諸高原美術館・白鳥映雪館



次代を担う若手昆虫写真家たちの作品も

令和4年度 海野和男 写真展

開催期間 7/24(日)～8/21(日)

昆虫写真家の第一人者として世界を舞台に活躍されている海野和男氏が市内にアトリエを構えているご縁から、平成25年度から毎年度、市立小諸高原美術館・白鳥映雪館の企画展として「海野和男写真展」を開催しています。

今回の写真展は、4本立て。第1展示室では海野氏の「カブトクワガタの肖像」のほか、「新しい昆虫写真」と題し、若き昆虫写真家の作品展示。そのほか、小諸を舞台に繰り広げられる「生きもの写真リトルリーグ2021-2022」や海野氏がオリンパスギャラリー東京で開催した「蝶・舞う2019-2021」を展示(第2展示室)。

7/24(日)の初日にはオープニングマルシェ、テープカット、海野和男氏によるギャラリートークも行います。ご家族で楽しめる展覧会となっておりますので、ぜひ美術館にお越しください。



▶時間 9:00～17:00

▶観覧料 一般500円(400円)、小中高生無料
()内は、30名以上の団体料金

▶会期中のイベント

7/24(日) オープニングマルシェ	10:00～15:00
テープカット	11:30～
ギャラリートーク	13:30～

▶休館日 月曜日

☎ 小諸高原美術館・白鳥映雪館 ☎ 26-2070

昆虫写真家

海野和男の小諸日記



ミヤマシロチョウ

ミヤマシロチョウはかつては浅間山系の標高1500m以上の地域に広く分布していたが、今では東御市の湯の丸高原、池ノ平湿原周辺などに生息しているに過ぎない。幸い湯の丸高原では食草のメギを全て標識して、そのまわりのクマザサを刈ったりと、ミヤマシロチョウを守る活動が東御市教育委員会や群馬県の嬭恋村の愛好者によって行われているので、その数は安定している。歳とって歩けなくなる前にと、昨年湯の丸高原のツツジ平周辺にミヤマシロチョウの写真を撮りにいった。

美ヶ原や八ヶ岳の原村など、かつて多く生息していた地域では、環境保全活動が間に合わず、森林化して、絶滅や絶滅に近い産地も多いという。こうした希少種の保護は、行政に生物に造詣が深い方がおられないと難しいという人頼りという性格がある。そういう方も、退官したりしてしまうわけで、その後が続くかどうか心配なわけだ。ともあれ、小諸周辺は稀少なチョウの宝庫であるから、一度は見に行かれましたら良いと思う。時期は7月中旬から下旬までだ。



緑の丘にふれあいの鐘が鳴る
やまびこ園

障害者グループホーム
障害者支援施設
軽費老人ホーム

デイサービスセンター
認知症対応型グループホーム

社会福祉法人 **小諸青葉福祉会** 小諸市大字柏木1328 ☎0267-23-9515

AOBA

参加無料

ひよこの日

7/7(木) 入園前の親子の皆さま対象

「夏の夜空をかざりましょう」
【受付】9:45～10:00 【活動時間】11:45まで
ご予約いりません。詳しくは電話でお問い合わせ下さい。

オープンデー
毎週水曜日の午前中(9:00～11:30)園庭開放しています

園見学いつでもお受けしています

認定こども園 **こもろようちえん** ☎0267-22-0355 小諸市3和1-5-16
http://www.komoroyouchien.ed.jp